



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4435 号 2018.6.12 発行

料理の注文間違えても受け入れて 障害者就労の店 倉敷に限定登場へ

「世界一やさしいレストラン」のイメージ



山陽新聞 2018年6月10日
知的障害者がスタッフを務め、注文を間違っても「大丈夫」と客が笑顔で受け入れる。そんな料理店が20、21日、倉敷市内に期間限定で登場する。名付けて「世界一やさしいレストラン」。障害者就労への理解を深めてもらうとともに、誰もが優しく支え合う社会を目指す取り組みだ。

スタッフは、就労継続支援B型事業所で働いたり、就労移行支援事業所で訓練に励んだりしている障害者、支援学校の生徒ら12人＝10～20代。客から注文を取ってテーブルに料理を運び、片付けや料金の精算も行う。同A型事業所などを営むNPO法人・まこと（倉敷市中庄）が、市美観地区の人気イタリア料理店「星のヒカリ」（同市中央）を貸し切って開設する。

客として訪れるには条件がある。「間違いを笑顔で許してくれること」。メニューはコースのみで、メイン料理を「クリームパスタ」「オイルパスタ」「ラザニア」の3種類から選ぶ。もしかしたら、パスタを注文したのにラザニアが出てくるかもしれないが、「まあいいか」と状況を受け入れるのがコンセプト。そのまま食べるか、取り換えてもらうかは客に委ねられる。

料金は950円。千円札で支払った際に50円のお釣りが出るようにした。スタッフの就労訓練のためだ。

『「世界一やさしい」とは、来てくれるお客さんのこと』。主催者の一人、山田弓美さん（48）＝まこと職員＝が説明する。「障害者がどんなふうにいるのか、間近で見て知ってほしい。声掛けや少しの手助けがあれば、本当に多くのことができる」

障害者の自立支援に取り組む協同組合「レインボー・カフェ・プロジェクト」（倉敷市）の理事で医師の亀山有香さん（45）は「障害のある人もない人も、お互いが優しい気持ちで歩み寄れば、もっと働きやすい社会になる」と活動に賛同する。

認知症患者を配膳係に、東京で昨年開かれ話題を集めた「注文をまちがえる料理店」に触発され企画。定期開催も計画している。

20、21日とも午前11時～午後0時半と午後1時～2時半の2部制。定員は各日45人（先着順）。15日までに、まこと（086-436-8805）に申し込む。

障害や病気「配慮と援助を」 ヘルプマーク知って

京都新聞 2018年6月11日

弱者や障害のある人たちを助けるマーク。自治体や省庁、NPOなどがいろいろと作成し、分かりにくい。時々ヘルプマークのポスターを見るが、あまり知られていないように思う。（京都府舞鶴市の読者からの質問）

ヘルプマークは、見た目には障害や病気があると分からない人たちが、周囲に配慮を必要としていることを示す。東京都が2012年に初めて考案し、16年に京都府、17年には滋賀県も東京都と同じデザインで導入した。府や県は必要な人にマークを無料配布しているが、認知度はまだ低く、当事者たちは普及を願っている。

膠原（こうげん）病患者で平衡機能障害がある藤野久美さん（49）＝京都市右京区＝は、電車内などでは立ってられず、優先席を利用する。しかし、他の乗客から「何で座ってるの」と何度もとがめられた。そのたびに説明し、理解を求めてきた。

ヘルプマークを付けたかばん

今は周囲に見えるよう、マークをかばんに付けて外出する。今年に入り、車内で席を譲ってもらった経験をした。ただ、いまだに優先席にいると注意を受ける。「マークをもっと認識してもらえたら」と切実な思いを語る。



府に導入を強く呼び掛けてきた西村圭子さん（77）＝宇治市。13年に視神経脊髄炎を発症した。右目は色彩を判別できず、体に痛みを感じる。都がマークを作成したと知り、京都での実現を求めて必死に手紙を書き、府内の首長や議員らに送った。全国的な導入を目指し、他府県の知事にも送り続けている。

西村さんは「まだまだ知らない人が多く、電車は早朝など空いている時間に利用している。まずは周りの人のかばんなどに注意を向けてほしい」と訴える。

ヘルプマークとは別に、内部障害や内臓疾患のある人を表すハート・プラスマークがある。日常生活で苦しい経験を繰り返してきた当事者たちが03年に作成した。行政に働き掛け、公共駐車場の優先スペースにも掲示されている。

普及に取り組むNPO法人「ハート・プラスの会」の鈴木英司代表理事（58）＝伏見区＝は「切羽詰まった本人たちの思いがこもったマーク。身の回りにこうした人がいることを知ってほしい」と話す。

■マタニティーマーク 効果とためらい

厚生労働省が2006年に作成したマタニティーマークは、おなかが目立たない妊娠初期から周囲に妊婦であることを伝えるマークとして知られるようになってきた。マークを使い、電車やバスで席を譲ってもらったという女性が多い一方、周りの目を気にして使用をためらう人もいる。

記者（37）も長男（1）を妊娠中、体調不良など万が一に備えてかばんにマークを付けていた。ただ、気恥ずかしさや、妊娠を強く主張しているように見られるのではという思いもあった。取材を通じて、同じように考える女性が少なくないことを知った。

長男（11カ月）を育てる岸本紗央理さん（28）＝京都市左京区＝も複雑な気持ちで使っていた一人。「電車内ではみんな疲れて寝ていたり、携帯電話をいじっていたり。（マークを見て）いい気分がしない人もいるだろうし、アピールはしなかった」。つわりがひどく、立っていると気持ち悪さを感じやすかった。途中下車し、トイレに駆け込んだこともあったが、「つわりの大変さを分からない人もいると思う」。

北野かおりさん（37）＝上京区＝は2人目となる長女（1）を妊娠中、遠出する時以外は使わなかった。自分がまだ妊娠する前、不妊に悩む友人が「マークを見ると落ち込む」と話していたのを覚えていたからだ。

マークを使っていると「嫌がらせを受ける」「階段から突き落とされた人もいる」といった話も取材で耳にした。いずれもまた聞きだったが、妊婦を守るはずのマークが、逆に不安にさせる状況も一面で生じている。マークを必要とする人が気兼ねなく使え、一方で不妊に悩む人に心を寄せる社会をどうつくっていくか、市民一人一人が問われている。

電車やバス、飲食店で赤ちゃんが泣きやまないと保護者は焦るが、そんな様子を温かく見守るステッカーがある。ママ向けウェブサイト「ウーマンエキサイト」が作成した「WEラブ赤ちゃんー泣いてもいいよ！ー」ステッカー。赤ちゃんの顔の横には「泣いてもいいよ！」と書かれている。

いよ！」の吹き出しが。スマートフォンの裏面などに貼り、子どもをあやす親にさりげなく思いを伝える。「子育てに関するネガティブなニュースは表に出やすいが、ポジティブな思いを可視化したかった」と担当者。「男性にも貼ってほしい」と呼び掛けている。

盲導犬の入店拒否も、嘆く障害者 差別解消法3年目、遠い共生社会

福井新聞 2018年6月11日

障害のある人に対する差別の禁止などを盛り込んだ「障害者差別解消法」が施行から3年目を迎えた。福井県内でも、当事者らが声を上げて差別的対応が解消された例がある一方、県身体障害者福祉連合会に寄せられた相談は昨年度451件にも上り、自治体や障害者団体が事業者などに改善を求めるケースが少なくないことが分かった。「障害に対する配慮が社会全体に広がっていない」と考える当事者も多く、誰もが分け隔てられることなく共に暮らせる社会の実現は道半ばだ。

盲導犬「あいむ」と歩く女性。白杖を使うよりも不安が少なく、さっそうと動けるといふ＝福井県福井市内

「盲導犬はだめです」。福井市内の全盲の女性（73）は昨年、同市内の飲食店を友人と訪れた際に入店を拒否された。これまで何軒も断られた経験があり「またかって感じ。がっかりです」と残念がる。他の客に迷惑がかかる可能性を店側は主張するが、7年間ともに暮らす盲導犬はしっかりとつけさせ「ほえたりかみついたりすることはなく、衛生面にも気を使っているのに」と憤りを隠さない。



2016年4月に施行された障害者差別解消法は、不当な差別的取り扱いを禁止している。正当な理由のない同伴拒否は差別的取り扱いに当たり、02年施行の身体障害者補助犬法でも禁じられている。

市の施設でも入場を拒否されたことがある女性は「盲導犬はペットじゃなく私の目そのもの。自分を否定されたようで悲しい」と話し、法の理念浸透にはまだ時間が必要と感じている。

重度・重複の障害がある人の活動をサポートする福井市の「げんきの家」の利用者とスタッフは昨年、同市内のスーパー銭湯に出掛けた際、受け付けで呼び止められた。「何かあったら責任が取れない。設備の整った専門の施設に行ってください」。生活支援員の男性（28）は「入り口にスロープがあり、これまで何度か利用してきたのに突然言われた。けがをされたら施設として困るのは分かるけれど、傷ついた」と唇をかんだ。

「車いすの人が舞台上がれるようホールの管理者に協力を頼んだら主催者側で用意してと言われた」「病院駐車場の発券位置を低くしてと要望したが返事さえない」「（2月に車いすで）運転免許証の更新に行ったらエレベーターがないため、暖房のない別室に案内された」。

県身体障害者福祉連合会の「障害者110番」には、16年度546件、17年度451件の相談があり、公的施設・機関に対する苦情も絶えない。

一方で、障害者に配慮した改善もみられる。

県内のある高校では、昨年度入学した弱視の生徒に授業中の単眼鏡使用を認め、チョークの色や書き方を工夫した。耳の不自由な有権者に配慮し、全ての投票所に筆談ボードなどの配備を検討している選管もある。

車いすや補助犬同伴を理由に宿泊、利用を拒否したホテルや道の駅には、自治体が指導し、管理者が従業員に改善を指示した。県は4月、県共生社会条例を施行した。事務局の県障害福祉課は「法の理解が進んだとは言い難く、条例もできたばかり」とし、法律と条例の周知を図る。

「介護レク」に情報誌 西区の企業が創刊

大阪日日新聞 2018年6月10日

高齢者を対象にしたレクリエーション事業を手掛ける「BCC」（大阪市西区）は、専門情報誌「介護レク広場・book」を創刊した。約80施設の協力を得ながら、旬のプログラムをはじめ、実践風景とともに取り組み方のポイントを紹介。高齢者にとって「生きる楽しみ」となる介護レクの魅力を発信していく構えだ。

介護レクの魅力発信に意欲を示す伊藤社長（右）と小出執行役員＝大阪市西区



同社は、2010年にレクの素材を提供するサイト「介護レク広場」を開設。14年にはレクリエーション介護士の資格を開発し、約2万人が資格を取得している。サイトの利用者から紙媒体の要望が相次いでいたため、昨年5月から雑誌の発行を企画した。

「スタート号」は118ページ、A4判フルカラー、1944円。レクの準備段階から締め方まで具体例を紹介している。雑誌とネットサイトを連動し、2次元バーコード（QRコード）で読み込むと、音楽や動きを動画で確認できる分もある。

介護施設で実際に取り組んでいる様子を紹介しているのも特徴。そのレクの良さだけでなく、利用者にとって難しい場合は難易度をどう下げるかといった工夫を、施設担当者の声を通して示している。

巻頭特集では、新たなレクを創出する発想法を紹介。ネタ不足に悩む声が多かったためだ。スタッフの趣味や高齢者の人生背景を軸に考えたりする手法を提案しており、事業責任者の小出契太執行役員は「レクを自分たちで生み出すきっかけになれば」と思いを込めている。

昨年12月に発行した「準備号」が好評で、スタート号は予約段階で約1500冊を販売。7千冊を全国の書店に置いた。販売目標は5千冊。今後は2カ月に1回、奇数月に発行する。

伊藤一彦社長は「施設だけでなく各家庭でも楽しんでほしい。介護レクは、遊びではなく、高齢者の生きる楽しみや喜びのための活動ということを広めていきたい」と意欲を示している。

目隠しスポーツチャンバラ、宮崎で「いつかパラ種目へ」 大山稜

朝日新聞 2018年6月11日

目隠しをして戦う健常者（手前）と全盲の男性。この試合は全盲の男性が制した＝2018年6月、宮崎市阿波岐原町



目隠しをしたまま「スポーツチャンバラ」を行う新競技を、宮崎市在住の2人が考案した。視覚障害者と健常者が一緒に楽しめる競技で、考案者たちは「いつかはパラリンピックの種目に」と夢をふくらませる。

6月初旬、宮崎市の公民館で男性2人が相対していた。手には長さ約60センチのゴム製の剣、目にはアイマスク。審判が「はじめっ」と告げると、剣を前方に突き出し、静寂の中をゆっくり前に進む。剣がふれあうと、猛烈な速さで互いに剣を上下左右に振り始めた。何も見えない状態で戦う新競技「ZATO1（ザトーイチ）」だ。

試合時間は3分で、コートは4メートル四方。足裏の感触でコートの境目が分かるよう、編みひもで仕切られている。健常者も障害者もアイマスクで目を覆って視界をふさぎ、相

手の胸元につけられたボールを剣で突いて落とせば「一本（いっぽん）」。2本先取で勝ちとなる。

場外に両足が出たり、剣を落したりすると減点。減点2で相手に一本が入る。ボールの中に入っている鈴の音、相手の息づかいや足音など、わずかな気配を捉えて剣を振り合う。

考えたのは宮崎市に住む上田将悟さん（36）と戸越正路（とごえまさみ）さん（33）。マッサージ師として働く上田さんは、脳性まひや脳梗塞（こうそく）などで体に障害がある人を対象に仕事をしている。その中で「障害者でも運動をしたい」「ジムには入会を断られた」という声を聞いた。

「健常者と障害者が一緒に楽しめるスポーツはないか」。上田さんの思いに賛同した戸越さんと一緒に、新競技を模索した。できるだけポップに楽しめるものがない——。そう考えた戸越さんは、ゴム製の剣を竹刀代わりにして戦う「スポーツチャンバラ」に目を付けた。「目隠しをすることで新たな競技性が生まれるのでは」。競技名は盲目の剣士を描いた時代劇「座頭市」に、格闘技大会の「K-1」や自動車レースの「F1」を組み合わせた。

利用者と市民交流図る 由利本荘市で県障害者コロニー祭 秋田魁新報 2018年6月11日

秋田県由利本荘市西目町出戸の県心身障害者コロニー（小澤久範管理者）で10日、恒例のコロニー祭が行われた。多くの市民が訪れてステージイベントを楽しみ、コロニー利用者の手作り品を買い求めた。

利用者と地域住民との交流を目的に、毎年この時期に開催。体育館で行われたオープニングセレモニーでは利用者らが「わっしょい」の掛け声とともにみこしを担いで会場を盛り上げた。西目中吹奏楽部と仁賀保太鼓伝承会による演奏も披露された。

倉敷・フィル解雇 再就職は33% 26日にハローワークが面接会

山陽新聞 2018年6月11日

倉敷市内で就労継続支援A型事業所3カ所を運営していた「フィル」（同市真備町川辺）＝破産手続き中＝が閉鎖し、解雇された障害者171人のうち再就職できたのは57人（33・3%）にとどまっているとして、ハローワーク倉敷中央は26日、市民会館（同市本町）で就職面接会を開く。ハローワーク倉敷中央によると、再就職できた人は5月31日時点で、企業に20人、雇用契約を結ぶA型事業所に31人、雇用契約を結ばないB型事業所に6人。未決定者のうち107人はハローワークで相談中か再就職先の紹介を受けている。再就職を希望していないのは1人だった。フィルは3月16日に障害者を一斉に解雇した。ハローワーク倉敷中央は4月にも就職面接会を開いたが、再就職が進んでいない要因について「倉敷市内では昨夏にもA型事業所で働く224人が職場を失った。相次ぐ閉鎖によって障害者を受け入れられる事業所が減っている」と指摘する。就職面接会は26日午後1時半～3時。倉敷市内を中心に、企業とA型事業所の計15社程度がブースを設け、採用担当者が業務内容や待遇などを説明する。問い合わせはハローワーク倉敷中央（086-424-3333）。

障害児デイサービスで公費支出増 京都、質低下に懸念も 京都新聞 2018年6月10日

障害のある子どもが放課後や休日に通う「放課後等デイサービス」の京都府乙訓地域2市1町の公費支出が増加し続けている。2016年度分は、制度が始まった12年度の約8倍に達した。利用増は全国的にも同様の状況だが、サービスの質を懸念する声も聞かれる。

放課後等デイサービスは、設置基準が緩やかで株式会社など営利法人の参入も認められ

ているため事業所が増えており、乙訓地域には現在12カ所の事業所がある。また、学校や自宅との間の送迎を実施する事業者も多く、原則1割で上限付きの自己負担でサービスが受けられるため、利用者のニーズも高まっている。

同サービスにおける乙訓2市1町の2016年度の公費支出額をみると、向日市は12年度比9・5倍の5700万円、長岡京市は同6・4倍の9600万円、大山崎町は同20倍の1400万円だった。利用者が増えている背景について、向日市の障がい者支援課は「家庭と保健師、学校などの連携が進み、支援が必要な子どもを療育に橋渡しする体制が整備されてきたことも大きい」としている。

一方で全国的には、生活力の向上のための適切なプログラムを実施せずに「単なる預かり」とどまるような質の低い事業所も問題になっている。また、保護者の意向だけでサービスをほぼ毎日利用し、子どもの主体性が損なわれている、といった指摘もある。

乙訓地域では、サービス利用の上限を原則1カ月当たり15日とする独自ルールを定めている。子どもや保護者との面談などを経て利用計画の作成を担い、サービスの提供も行っているNPO法人こらぼねっと京都（長岡京市）の伊藤美恵所長は「保護者だけの都合ではなく、サービスが本当に子ども本人の将来のためになっているのか、という視点が大切。子どもの豊かな放課後を作るため、各家庭と事業者、計画作成の担当者が連携を密にすることが求められている」と話す。

放課後等デイサービスの公費支出額

年度	向日市	長岡京市	大山崎町	3市町計
2016	5700万円	9600万円	1400万円	1億6700万円
2015	4100万円	7300万円	1000万円	1億2400万円
2014	2500万円	5200万円	700万円	8400万円
2013	900万円	1900万円	60万円	2860万円
2012	600万円	1500万円	70万円	2170万円

(※国、府分も含む。いずれも決算ベース)

■放課後等デイサービス

就学後の6～18歳の障害児を放課後や長期休暇中に預かり、遊びや学習を通して生活能力の向上のために必要な訓練などを行う。児童福祉法などの改正により、2012年度に制度化された。療育手帳や身体障害者手帳が必須ではなく、発達障害などの子どもも利用しやすい。

追跡 「もう迷惑かけられぬ」 地域で支える再犯防止 人生の大半刑務所、71歳男性の決意

毎日新聞 2018年6月10日

罪を繰り返す元受刑者らが後を絶たない。2017年版「犯罪白書」によると、検挙者に占める再犯者の割合（再犯者率）は年々増加し、16年は5割近くを占める。同12月に「再犯防止推進法」が施行され、国や自治体、民間団体などの連携強化が求められる中、岐阜県内では保護司らが5年前に出所した高齢男性を地域で支える。各地でも元受刑者らの再犯防止に向けた取り組みが進みつつある。【加藤沙波】

岐阜県内のトンカツ店で今年5月下旬、上原一雄さん（71）＝仮名＝を主役に、地域の保護司ら5人が食事会を開いた。13年5月に岐阜刑務所（岐阜市）を満期出所後、社会復帰して5年を迎えた「お祝い」だ。

上原さんは、身寄りのない高齢出所者らを支援する「岐阜県地域生活定着支援センター」を通じ、同県内で生活を始めた。センターから相談を受けた保護司の中村知子さん（69）＝仮名＝らは社会福祉協議会や自治体とも連携し、地域ぐるみでアパート探しや買い物などの手助けをしてきた。上原さんは保護司の活動拠点「サポートセンター」に頻繁に足を運び、日々の出来事や刑務所の思い出話で盛り上がるという。

九州地方の港町で生まれ育った上原さん。中学生で漁師の父親が亡くなると暮らしは困

窮し、裕福な同級生やいとこが妬ましかった。金を盗むなど罪を重ね、初めて刑務所に入ったのは20歳ごろ。出所後も職を転々としたり不況で働く場を失ったり。「腹が減ったら万引きするしかない」「刑務所の方が楽」――。何度も罪を繰り返す、人生の大半を刑務所で暮らしてきた。

「安定した仕事や少しの支えがあれば普通に生活できていたはず」と保護司の男性（70）は話す。畑仕事やボランティアに熱心に取り組み、地域の行事にも参加する上原さんは、周囲からは「きちょうめんで真面目な人」と映る。それでも一度だけ、「墓参りがしたい」と故郷に行ったとき10日ほど連絡が途絶えたことがあり、上原さんの携帯電話の着信履歴は心配した中村さんからの番号でいっぱい。「こんなによくしてもらって、もう迷惑はかけられん」と決意したという。

長年、出所者らの立ち直りを支えてきた中村さんだが、出所者が再び犯罪に手を染めてしまうなど、うまくいかなかった事例も少なくないという。中村さんは「仲間の一人として接している。彼にとってはこの環境が合っていたのかな」と話す。

東海でも計画策定へ

2017年版「犯罪白書」によると、刑務所からの出所者の38・3%が5年以内に再入所している。16年の高齢受刑者のうち再入者は7割を超える。再犯防止推進法を受けて政府は昨年12月に「再犯防止推進計画」を閣議決定し、「就労・住居の確保」「保健医療・福祉サービス利用の促進」など七つの重点課題を掲げる。同法では地方自治体の計画策定を努力義務とする。岐阜県は計画策定に向け今年度約80万円の予算を計上。愛知県は8日、司法や福祉、就労支援などの関係機関・団体が集まり初の連絡協議会を開催した。三重県も一部自治体で再犯防止策の検討を始めた。

G I Dの子に2次性徴抑制療法 当事者切迫、医学の助けを＝岡山支局・林田奈々

毎日新聞 2018年6月10日

性同一性障害（G I D）の子どもは、声変わりしたり、胸が大きくなったりする「2次性徴」が始まると、精神的に不安定になりやすい。治療の一つとして、2次性徴を抑える療法がある。しかし認知度不足や保険適用できないこと、成長を止めることへの抵抗感などから実施例はごく僅かだ。医療で解決に近づく問題もある。治療が広がらない背景や理由を探った。

兄の声変わりに焦燥

「一気に重しが取れたような感じ。治療を受けて良かった」

中国地方に住む中学1年の麻衣さん（13）＝仮名＝は、2次性徴を抑える薬を初めて投与された時のことを振り返る。男性の体で生まれたが心は女性。手入れした前髪をピンで留め、ふんわりとしたニットに身を包む。外見は少女そのものだ。

保育園児の時から「私は女の子」と訴えた。小学校は男児として入学したが、自分の男性名に拒否感があった。自己紹介や、名前を呼ばれて返事をする事ができず、いつも独りぼっちでふさぎ込みがちに。家族や教師、医師で話し合い、小学2年から名前を女性風にした。女兒として通学するようになると明るさを取り戻した。

ところが、小学5年の時、衝撃的な出来事があった。年の近い兄の声変わりが始まり、ひげが生え始めた。自分も同じ特徴がもうすぐ現れるのでは、とおびえた。「早く女性の体に」との焦りが以前より強くなり、家で突然泣き出すなど精神的に不安定になった。

通っていた岡山大病院ジェンダークリニックの勧めで、小学6年から抑制療法の薬の投与を受け始めた。心は落ち着き、今も4週間に1回投与を受け、元気に通学している。

12歳前後で投与可能

この療法は、性ホルモンの分泌を抑える物質を注射や点鼻薬で投与し、2次性徴を一時的に止める。短期間であれば副作用はほとんどないとされ、投与をやめれば2次性徴が再び始まる「可逆的」な治療とされる。

日本精神神経学会のG I D診療・治療ガイドラインによると、2次性徴の初期（12歳前後）で体の性別への違和感が強く増している場合、医療チームの判断や親の同意などを条件に投与が可能となる。

「体の成長に影響し、倫理上の問題も残る」。対象が子どものため、抑制療法に慎重意見も根強い。だが、当事者から「思春期に有効な治療が必要」と切迫した声も聞かれる。

G I Dの子どもは成長に従って自らの性を見極め、男性・女性のホルモン投与や性別適合手術で、心と体の性を一致させていく。ただ、学会ガイドラインは、性ホルモン投与は18歳（一定条件で15歳）以上、適合手術は成年以上と定める。性ホルモン投与でさえも、精子の減少や声が低くなるなど多大な影響をもたらす「不可逆的」療法だからだ。

一方、2次性徴の進行後に性ホルモンの投与や手術を受けても、望む性の姿になかなか近づくことはできない。例えば、女性として生まれて心が男性の場合、2次性徴の終了後は男性ホルモンを投与しても身長が伸びない。逆の場合、2次性徴による広い肩幅や濃い体毛は、女性ホルモン投与や性別適合手術でも本人の思うようにならず、一生悩み続けることもあるという。

ホルモン投与は年齢的に早いですが、違和感ある性に体が近づくのは納得できない。このジレンマの解消につながると当事者らが期待するのが抑制療法だった。学会ガイドラインは、治療を学会に報告するよう医師に求め、長期間投与を続けると骨粗しょう症になる

恐れがあるため、期間も2年程度をめどとし、その後は中止か性ホルモン投与開始かを検討するよう定めるなど、一定の歯止めも掛けた。知識なく受診できず



しかし、2011年11月に抑制療法がガイドラインに明記されてから、抑制療法の実施例は少ない。毎日新聞が、G I D学会の認定医が所属する全国14の医療機関に尋ねたところ、今年1月までに実施された件数は25例だった。

LGBTなど性的少数者の存在を教育現場はもっと知るべきだと訴える中塚幹也・岡山大学教授。「T」のトランスジェンダーはG I Dなど生まれ持った性別と認識する性別が異なる人々を指す＝岡山市北区で、林田奈々撮影

G I D学会の理事長を務める岡山大の中塚幹也教授は「性同一性障害の子どもが医療機関にたどり着けない問題が大きい」と指摘する。日本精神神経学会の研究グループによると、15年末までにG I Dで医療機関を受診した人は約2万2000人に上るが、相当数の子どもが受診できていないとされる。中塚教授は「性同一性障害には医学の助けが必要だが、子どもや周囲の大人にそうした知識がなく、医療に結び付いていない」と話す。高額な治療費もハードルの一つだ。抑制療法は公的医療保険の適用対象外で、治療費は月3万円程度。負担が数年続くため、実施をためらう人もいるという。

医療側の課題もある。G I D認定医で沖縄県浦添市でクリニックを開く山本和儀医師は「専門知識を持つ小児科医が少なく、子どものG I Dを診断することに及び腰になっている。データを蓄積し自信を持って診断し、積極的に支援すべきだ」と訴える。

自殺未遂や不登校も

体への深刻な違和感から低年齢で自殺未遂を起こしたり、不登校になったりするケースは少なくない。岡山大病院ジェンダークリニックの調査によると、1998～2010年に受診したG I D当事者約1200人のうち、半数以上が小学校入学以前に、9割が中学生までに体の性別に違和感を持っていた。自殺を考えたことがある人は6割、自傷や自殺未遂の経験がある人は3割に上り、不登校の経験がある人も3割いた。

自殺願望の強い時期を見ると、中学生と大学生・社会人の時期という二つのピークがある。原因を探ると、中学生では2次性徴や制服、恋愛に関する悩みが多かった。中塚教授は「2次性徴による体の変化は焦燥感や絶望感につながる。中学生の時期は『危機の年代』と言える」と話す。

麻衣さんの母親は、抑制療法を受けさせるか悩んだという。性徴を一時的にストップさ

せることで体に悪影響は出ないのか、そもそも不道德なのでは—。最終的に麻衣さんの心を守るために治療を決断した。母親は「体よりも先に精神が崩れてしまうと思った。『2次性徴が来たら』と考ただけで不安定だったのに、実際そうならどうなるか恐ろしかった」と明かす。そして、投与を受けている間、猶予期間ができた。「今後の生き方について親子で考えることができる。選択肢がある時代に感謝している」

文部科学省が13年4～12月に初めて行った実態調査では、小中高校に相談しているG I Dの児童生徒は606人だった。この数は決して少なくない。男性と女性の枠組みしかなかった社会も徐々に変わりつつある。子どもたちの悩みは時には大人以上だ。正しい知識や生き方の選択肢が届けられ、医療体制と社会の理解が進むことを願う。

■ことば 性同一性障害 (G I D)

身体的な性別と心理的な性別が一致せず、強い違和感に苦しむ疾患。精神的な治療だけでは苦痛の改善は困難な場合も多い。正確な統計はないが、国内には患者が4万人以上との推計もある。2004年施行の性同一性障害特例法で(1)2人以上の医師の判断(2)20歳以上(3)結婚していない(4)性別適合手術を受けている—などの条件を満たせば、家庭裁判所に請求し、戸籍の性別が変更できるようになった。文部科学省は15年、G I Dの児童生徒に対し、校外の医療機関とも連携してきめ細かな対応をするよう通知している。

千葉県教委 生徒ら308人 教職員に「セクハラ感じた」 毎日新聞 2018年6月11日

千葉県教育委員会は6日、公立小中高校などを対象にアンケートした昨年度のセクハラ・体罰に関する実態調査で、児童・生徒308人が教職員の言動を「セクハラと感じた」と回答したと発表した。一方、「体罰を受けたり、目撃したりした」との回答数は公表せず、県教委は「アンケート後に各校が追跡調査した結果、体罰の疑いがある事例はなかった」としている。【加藤昌平】

調査は2004年度から毎年実施。今回は昨年12月1日～今年1月31日に、千葉県外の県内公立小中高校と特別支援学校の計1165校を対象に行った。児童・生徒約49万6000人にアンケートを配り、ほぼ全員から回収した。ただ、アンケートは「原則記名で匿名も可能」としている。

セクハラを訴えた人数は、高校が最多で153人(前年度比2人減)。中学校85人(同9人増)、小学校56人(31人減)、特別支援学校14人(8人減)と続いた。

主な回答は、体育の後、更衣中に教室に来て不快▽先生が生徒の前で生徒の下着の話をする▽部活動中に触るのを見た▽特定の先生に性的な話をされた▽体育の授業で集合時に胸や脚をじろじろ見られた▽体形のことを言われた—など。教職員にもアンケートを実施しており、98人が教職員や生徒の言動を「セクハラと感じた」と回答していた。

体罰の調査結果では、被害や目撃の有無に関する回答数は例年、非公表とされている。アンケート後に各校が調査し、「体罰の疑いがある」と判断した件数を発表するが、過去3年間で15年度の1件しかない。ただ、昨年度は体罰に関する訓告などの指導措置が4件あり、いずれもアンケートには記載されていない事例だったという。

指導措置の対象になった体罰の事例は、他校との練習試合後のミーティングで、生徒の左頬を手のひらでたたいた▽授業中に居眠りをしていた生徒の頭を教科書で強くたたき、チョークを投げて顔に当てた—などだった。

